



## 知識と経験とおしゃべりで”やりたいこと”に伴走する 福島大学「小高まちなかランチ」

7月に開所した「小高まちなかランチ」、みなさんはもう立ち寄られましたか？福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライト（以下、サテライト）は、地域の新しい拠点です。

「大学の知見や復興支援経験を活かし、住民のみなさんの『やりたいこと』を一緒にかたちにしていきたいんです」、そう話すのは、この場所に常駐するサテライトスタッフの伊藤航さん。スタッフ一丸となって、大学と地域をつなぐコミュニケーターとして、小高まちなかランチの使い方を模索しています。「暑いから休みに寄るくらい気軽に来てもらって、話せる関係を育んでいけたらなと。小高のみなさんからは、それぞれに大事にしたいことがあり、行動しようという心意気が伝わってくるんです。一人ではむずかしいことも、まちなかランチで相談するとちょっと動き出すかも。そんなふうに、頼りにしてもらえる存在を目指しています」（伊藤さん）。

早速その場で、長期休みの子どもの居場所について相談してみると、「ぜひやりましょう」と明るい返事。あたためていたアイデアが一気に現実味を帯びました。思いつきの種が芽生えた時に、まちなかランチで話してみると、次の一歩が自然と見えてくるかもしれません。



フレンドリーなサテライトスタッフのみなさんたち。取材に同行した息子とのおしゃべりもはずんでいました



先日は福島大学OBOGのみなさん向けの内覧・懇談会を実施

【小高まちなかランチ 問い合わせ】

〒979-2111 小高区仲町1-68  
開所日：月～金曜日 / 9:00～17:00  
電話番号：0244-26-3685

（書き手：蒔田志保）

## 小高でつなぐ！リレーインタビュー

### Q.小高の好きなところは？

まち中に車が少ないので、都会より安全に子どもたちを自転車に乗せられたり、散歩したりできる。人が少ないからこそ、色々なイベントで何回も出会い、仲良くなっていけるのがいいなと思います。

### Q.ターニングポイントとなった言葉はありますか？

とある講座の先生に「あなたはずっと同じところにいる方がいい」と言われました。在宅ワークよりも外にたくさん出たり、動いているほうが向いているようで。それを聞いて自分のやりたいことを色々掛け持ちでやってみてもいいのかもしれないと思えました。仕事を1つに絞らず様々な仕事をする「複業」という働き方を考えるきっかけになりました◎

### Q.お菓子づくりを始めたきっかけと、こだわりポイントは？

もともとお菓子・料理を作るのが好きで、子どものアトピー性皮膚炎がきっかけで、米粉を使ったお菓子作りを始めました。震災後、小高に戻ってきた時にママ友たちにふるまった米粉のお菓子が好評で、アオスバシ（小高区東町）のシェアキッチンを借りて販売を始め、今に至ります。こだわりポイントは、なるべく体に良い米粉・グルテンフリーなどの食材を使っているところ！将来、オーガニックカフェを開くのが目標です。

No.14

渡邊さん→木村さんへバトンタッチ！



木村 恵理さん

小高区在住 / 小高区出身

会社員（育休中）

<こめこのおかし ren(お菓子屋さん)>

次回は…木村さんからご紹介の方にインタビューします！  
お楽しみに～😊

### Q.移住検討中や移住してくる方へメッセージをお願いします！

身近に移住者と地元の方がいて、バランスがよいまちです。子どもを遊ばせる施設もありますし、のびのびと子育てしたい方、お待ちしております～😊

## ★ おだかの日～これからの 未来の 小高のことを語り合おう～

小高区の避難指示解除から10年を迎えた7月12日。小高区まちづくり委員会主催で「おだかの日」が小高交流センターで開催されました。小高区内の飲食店の出店やたくさんの来場者でにぎわいました。ステージイベントでは「小高で音楽やってみ隊」の心ほぐれる演奏。小高区で暮らしている方によるトークセッションが行われ、「小高ってどんなまちですか?」「小高を良くするためにはどうしたらいいか」などをテーマにそれぞれの思いを語り合いました。会場には、大悲山大蛇物語の「大悲山大蛇」も登場★友人・家族などでテーブルを囲み、出店で買ったフードを食べながらわいわいする姿も。なかには、ふらっと来て、ひさびさの再会を懐かしみながら話す姿などもあり、心が温くなりました。



そっと寄り添ってくれる音楽



ゆるやかで熱いトークセッション



小高で醸造されている  
お酒も販売🍷

## ★ みらい農業学校&農業自衛隊フェア

みらい農業学校(南鳩原)にて、地域と農業自衛隊がコラボした、子どもから大人まで楽しめる体験イベントが7月25日に開催されました。

イベントでは、農業自衛隊の講演、鷹とのふれあいなどが行われました。講演では、都市部の人口密集による地方の人口減少の話や、農家の高齢化や後継者不足による課題を解消する「援農」(地域外の人が農作業を手伝う)の話がありました。私の記憶に残った話は、都市部の人に移住をストレートに勧めるのではなく、地域の魅力を知って「第二のふるさと」と思ってもらうこと。私も移住前に小高の魅力スポットをまわり、地域の温かさを知って、移住が楽しみになった一人です。午後の学校説明会では、農業を実践的に学び、卒業後に地域農業を支える人材を育成する取り組みや、地域で働く魅力が紹介されました。

その他、鷹匠の斎藤法政さんの相棒である、鷹・ハヤブサたちを腕に乗せて、ふれ合う体験も。私は鷹にびびってしまい腕に乗せられませんでした。撫でた羽は見た目と違ってふわふわでした★お昼は、農業学校の野菜を使い、農業自衛隊が作ったカレーを食べながら、参加者同士で団らんの時間。子どもも大人も、間近で見る自衛隊車両や鷹などにわくわくした様子で、イベントを満喫していました。

### ●みらい農業学校とは?

農業の知識や技術を実践的に学び、地域の農業を担う人材を育成する学校。地域の皆さんとの交流などを通じて、農業の魅力などを伝える活動にも取り組まれています。

### ●農業自衛隊とは?

自衛隊で培った組織力やリーダーシップを活かし、農業の担い手不足や耕作放棄地などの地域課題を解決しながら地域を支える取り組みをしています。



農業自衛隊  
松上信一郎さんの熱い講演



自衛隊車両の体験乗車も



大きい鷹に  
興味津々

## ★ 始まりました!『おだかぐらし体験ツアー 遊ぶ広報』

市では、移住促進・関係人口拡大を目的とする「おだかぐらし体験ツアー～遊ぶ広報～」を実施します。「遊ぶ広報」とは、福島県外に住む参加者が小高区に2週間滞在し、「小高の暮らし」を体験するプログラム。滞在期間中には、地域コーディネータが小高区内を案内するツアーも実施します。

そして、体験したことやまちの魅力などを「広報さん」として参加者自身のSNSで発信していただきます。令和8年度の募集人数は50人!

あなたの、行きつけのあの店、お気に入りのあの場所、いつもの散歩道など、まちなかで「広報さん」に出会うことがあるかもしれません。みなさんとの交流も、遊ぶ広報では大切な「体験」のひとつですので、ぜひ会話を楽しんでください。

👉👉👉 お待ちしています!「暮らしの体験」の情報 👉👉👉

2週間の滞在中に、様々な暮らしを体験していただきたいので、農作業のお手伝いや行政区の活動、歴史や文化に触れる機会、小高区内で開催されるイベント運営のお手伝いなどの情報がありましたら、小高区地域振興課0244-44-6716までご連絡ください。

次回は、第33号/11月発行予定です